

和光市地域公共交通計画の中間評価について

1. 各指標の目標値に対する達成状況

現行の和光市地域公共交通計画における評価指標及び数値目標は下記のとおり

基本方針	計画の目標	評価指標	現状値	目標値	測定方法
市内の移動しやすさ向上	目標①： 利便性の高い地域公共交通軸の維持・充実	路線バスの年間利用者数	3,157 千人/年 (令和 2 年度)	5,000 千人/年 (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
	目標②： 拠点までの市内短距離交通の充実	市内循環バスの利用者数	110 千人/年 (令和 2 年度)	181 千人/年 (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
		市内循環バスの収支率	8.7% (令和 2 年度)	約 35% (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
	目標③： 狹隘道路や坂道等による公共交通の不便性の解消	公共交通空白・不便地域の居住人口の割合	28.4% (令和 3 年度)	約 10% (令和 8 年度)	GIS 等でバス停カバー地域外の人口を求め、全人口に対する割合を算出
		市民の満足度	29.4% (令和 3 年度)	約 40% (令和 8 年度)	市民アンケートで計測
まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通	目標④： 誰もが迷わず分かりやすい利用環境・情報提供	オープンデータ化率	35% (令和 3 年度)	約 44% (令和 8 年度)	市内バス路線のうち、オープンデータ化済みの路線の割合を算出
		情報提供等の整備箇所数	1 箇所 (令和 3 年度)	4 箇所 (令和 8 年度)	整備した箇所数を累計して算出
		市民の満足度(再掲)	29.4% (令和 3 年度)	約 40% (令和 8 年度)	市民アンケートで計測
	目標⑤： 交通サービスを提供するための基盤整備及び体制構築	交通空間の整備箇所数	—	5 箇所 (令和 8 年度)	整備した箇所数を累計して算出
		部会・研究会等の開催回数	—	10 回 (令和 8 年度)	開催回数を累計して算出
		モビリティマネジメント実施回数	—	5 回 (令和 8 年度)	実施回数を累計して算出
多様な移動による地域活性化	目標⑥： 多様な交通サービスの有機的な連携	主要拠点でのバス同士の平均待ち時間 (和光市駅で埼玉病院方面へ乗り継ぐ場合)	約 30 分 (令和 3 年度)	約 10 分 (令和 8 年度)	路線バス・市内循環バス等の時刻表から、乗り継ぎ時の平均待ち時間を算出

※和光市地域公共交通計画より抜粋

各評価指標の現在までの達成状況は下記のとおり

1-1-1 目標1_利便性の高い地域公共交通軸の維持・充実

評価指標：路線バスの年間利用者数

	現状値	目標値	達成状況
合 計	3,157千人/年 (R2年度)	5,000千人 (R7年度)	4,062 千人 (R5年度)

※令和2年度の利用者数から約90万人増加しており、新型コロナウイルス感染拡大に伴う利用者減から回復傾向にあるものの、令和元年度の利用者水準（4,859千人）や令和7年度の目標値には届いていない状況となっている。

1-1-2 目標2_拠点までの市内短距離交通の充実

評価指標①：市内循環バスの利用者数

現状値	目標値	達成状況
110千人/年 (R2年度)	181千人/年 (R7年度)	124 千人/年 (R5年度)

※令和2年度の利用者から約1万人増加しているが、令和7年度の目標値には届いていない状況となっている。令和6年1月の大幅な運行見直しに伴い、一時的に利用者が大きく減少した。令和6年度以降少しずつ増加傾向にあることから、引き続き、モビリティマネジメントや利便性改善等の利用促進を図る必要がある。

なお、令和6年度の市内循環バスについては、12月までの利用者実績が126,544人となっており、既に令和5年度の利用者実績を上回っている。

評価指標②：市内循環バスの収支率

現状値	目標値	達成状況
8.7% (R2年度)	約35% (R8年度)	13.7% (R5年度)

※令和2年度の収支率から約5%改善しているが、令和7年度の目標値には届いていない状況となっている。令和5年度は運行見直しに向けた設備投資等により、支出が大幅に増加したことも収支率に影響している。

なお、令和6年度は運行見直しと同時に実施した運賃見直しにより、収支は改善傾向となっている。12月までの運賃収入は15,273,759円であり、令和5年度の年間運賃収入（10,153,593円）を既に上回っている。

1-1-3 目標3_狭隘道路や坂道等による公共交通の不便性の解消

評価指標①：公共交通空白・不便地域の居住人口の割合

現状値	目標値	達成状況
28.4% (R3年度)	約10% (R8年度)	18.1% (R6年度)

※市内循環バスの運行経路等の見直しにより、公共交通空白不便地域における居住人口割合は約10%減少した。なお、公共交通空白地域については、タクシー利用料金助成事業により、高齢者の外出支援策を実施している。引き続き、全ての市民の移動の自由を実現するための方策について検討を行う。

評価指標②：市民の満足度

現状値	目標値	達成状況
29.4% (R3年度)	約40% (R8年度)	※地域公共交通計画見直し時に実施予定の 市民アンケート結果より把握

※市民の満足度については、地域公共交通計画見直しの際に実施予定の市民アンケート（対象者数：3,000人の予定）により達成状況を計測する。

1-1-4 目標4_誰もが迷わず分かりやすい利用環境・情報提供

評価指標①：オープンデータ化率

現状値	目標値	達成状況
35% (R3年度)	約44% (R8年度)	100% (R6年度)

※和光市内循環バスについては全ての路線において、オープンデータ化（GTFS-JP）を完了している。また、路線バスにおいてもオープンデータ化が完了したことで、当初目標を上回り、100%を達成した。今後はバスロケーションシステム等、オープンデータの効果的な活用法についても検討を行う。

評価指標②：情報提供等の整備箇所数

現状値	目標値	達成状況
1箇所 (R3年度)	4箇所 (R8年度)	1箇所

※和光市駅南口総合案内板の駅前ロータリー案内表示及び和光市駅周辺案内図の修繕を実施した。その他の主要バス停等についても分かりやすい案内の在り方等について検討を行う。

【参考】和光市駅南口総合案内板（修繕箇所は下記赤枠内）



評価指標③：市民の満足度（再掲）

現状値	目標値	達成状況
29.4% (R3年度)	約40% (R8年度)	※地域公共交通計画見直し時に実施予定の 市民アンケート結果より把握

※市民の満足度については、地域公共交通計画見直しの際に実施予定の市民アンケート（対象者数：3,000人の予定）により達成状況を計測する。

1-1-5 目標5_交通サービスを提供するための基盤整備及び体制構築

評価指標①：交通空間の整備箇所数

現状値	目標値	達成状況
— (R3年度)	5箇所 (R8年度)	バス待ちスポットの増設：3箇所 ※1箇所廃止したため、増加は2箇所 待機用ベンチの設置：1箇所

※市内循環バスの運行見直しに伴い、近隣に新規バス停が設置された公共施設をバス待ちスポットとして新規登録したが、バス停が廃止された施設を1箇所廃止した。

また、和光市駅南口のバス停に、和光市ロータリークラブの御協力により待機用ベンチを新規設置した。今後も引き続き、バス待ちスポットの登録を始め、交通サービスの利用に資する基盤整備の在り方を検討する。

評価指標②：部会・研究会等の開催回数

現状値	目標値	達成状況
— (R3年度)	10回 (R8年度)	21回（部会4回、研究会17回） (令和7年2月現在)

※和光市公共交通研究会については、市内循環バスの見直し検討時に集中的に開催し、様々な意見交換を行った。その為、当初の目標値は既に達成しているところであるが、部会・研究会ともに、引き続き、必要に応じて開催することとする。

評価指標③：モビリティマネジメント実施回数

現状値	目標値	達成状況
— (R3年度)	5回 (R8年度)	4回（令和7年2月現在） 市内イベント等における市内循環バス等のPR

※市内で実施されるイベント（参加実績は下記のとおり）にて市内循環バスや自動運転サービス等のPR活動を実施した。また、令和6年11月の市民まつりにおいては、東武バスウエスト（株）との連携により、乗務員募集に係るPR活動も併せて実施した。

今後も様々な方を対象としたモビリティマネジメントを引き続き実施することとする。

【イベント等への参加実績】

〔令和5年度：わこらぼフェス参加（5月）、市民まつり（11月）
令和6年度：みんなのわこらぼまつり（5月）、市民まつり（11月）〕

1-1-6 目標6_多様な交通サービスの有機的な連携

評価指標①：主要拠点でのバス同士の平均待ち時間

現状値	目標値	達成状況
約30分 (R3年度)	約10分 (R8年度)	約22分 (R6年度)

※市内循環バスの運行見直しに伴い、路線数が増えたことにより、和光市駅南口での埼玉病院方面行きのバスへの乗り継ぎ時間（平均）は約8分減少した。今後、市内循環バス同士だけではなく、市内循環バスと路線バスの乗り継ぎ等の利便性向上についても検討する。

1-2 各施策の取組状況と今後の課題

現計画の和光市地域公共交通計画における目標達成に向けた施策に対する評価検証は、以下のとおりです。

事業評価	A：予定通り完了または完了予定の施策 B：進行中だが、予定から遅れている施策 B'：内容または方向性を変更して、進行中の施策 C：現時点でまだ着手できていない施策 D：実施の是非について見直しが必要な業務
今後の見直しの必要性	一：完了した施策 ◎：さらなる発展的な取組みを検討することが望ましい施策 ○：今後も継続することが望ましい施策 △：事業内容を見直して継続することが望ましい施策 ▲：事業内容の見直し及び継続についても検討すべき施策

(令和7年1月末時点)

施策	事業	取組状況	事業評価	見直し／今後の課題	
【施策1】 路線バス等の維持・充実	事業1-1 新たな拠点整備等に合わせた路線整備	○自動運転バスによる1期社会実証・実装、2期社会実証	A	○	・これまでの実証及び実装走行の課題等を整理、改善し、本格運行に向けた検討を行う。
	事業1-2 利用実態に見合った効率的な運行見直し	○現在のところ、大幅な減便や路線廃止の相談等はなし	C	○	・路線バス減便や路線廃止の相談があった場合、バス交通の維持に向けた協議・検討を行う。
【施策2】 市内循環バスの再編・見直し	事業2-1 移動ニーズに合ったコンパクトな運行への見直し	○市内循環バス経路再編(令和5年度) ○3⇒5路線による運行範囲の拡大と、路線距離の短縮によるサービス拡充	A	○	・再編後の利用状況や利用ニーズに応じて、継続的な事業評価検証と見直しの検討、実施が必要である。
	事業2-2 路線バスとの重複・競合の解消		A	○	
【施策3】 新たな移動手段の導入	事業3 小規模需要及び狭隘道路地域への新たな移動手段の導入	○ラストワンマイル・モビリティの事例収集 ○ワゴン車両の導入 ○公共交通空白地域タクシー利用料金助成事業の実施	A	○	・収集した情報等を参考に和光市に適したラストワンマイル・モビリティについて検討する。
【施策4】 総合的な情報提供・利用案内	事業4-1 公共交通のオープンデータ化	○市内循環バスのオープンデータ化(令和6年度) ○GTFS-JP規格でのオープンデータ化実施	A	-	・市内循環バスへのバスロケーションシステムの導入について検討を行う。

	事業 4-2 情報提供ツールの作成事業	○市内循環バス総合案内 路線図作成（令和 5 年度） ○運行概要、路線図、時刻表、乗り継ぎ案内等を掲載したマップの全戸配布 ○公共交通ポータルサイトの開設	A	○	・ダイヤ改正に合わせた継続的な情報発信や、路線バスとの連携による情報充実が求められる。
	事業 4-3 主要拠点における案内強化	○和光市駅南口総合案内板の改修実施	A	○	・和光市駅南口以外についても分かりやすい案内板等への見直し等を検討する。
	事業 4-4 MaaS アプリ構築等の検討・研究	○MaaS アプリの構築・導入に係る検討 ○公共交通ポータルサイトの作成	B'	○	・当面は公共交通ポータルサイトの利便性向上に努める。 ・和光市に適した M a a S アプリの在り方を検討する。
	事業 5-1 和光市駅北口周辺の交通空間・道路整備の推進	○和光市駅北口まちづくり事務所担当者との協議 ○外環側道の車線整備	B	○	・和光市駅北口整備の進捗に併せ、担当職員や関連事業者との協議により、公共交通を利用しやすい環境を整備する。
【施策 5】 交通空間・運行環境の整備	事業 5-2 バス待ち環境の整備	○市内循環バスの運行見直しに併せた、バスまちスポットの登録施設の増設 ○和光市駅南口バス乗り場へのベンチ新設	A	○	・バスまちスポット増設検討 ・停留所における待機環境改善策の検討
	事業 5-3 車両のバリアフリー化	○ノンステップバス導入促進事業補助金による、バス事業者のノンステップバス導入支援	A	○	・引き続き、ノンステップバス導入補助金により、ノンステップバスの導入を支援する。
【施策 6】 市民・地域・民間企業等と共に考える場づくり	事業 6-1 部会・研究会の継続・発展	○地域公共交通事業者部会 ・開催実績 令和 4 年度：1 回 令和 5 年度：2 回 ○公共交通研究会の継続的な開催 ・開催実績 令和 3 年度：5 回 令和 4 年度：9 回 令和 5 年度：2 回 令和 6 年度：1 回 ・令和 3～4 年度は、市内循環バス見直しに係る協議等で特に重点的に開催	A	○	・事業者部会については、市内公共交通等に係る複数事業者間の足並みを確認する場であるとともに、今後の連携や情報共有等が期待できる場であることから、今後も継続的に実施を図る。 ・公共交通研究会については、地域住民を交え、地域交通に係る意見交換等が出来る場であることから、今後も継続的に実施を図る。

	事業 6-2 地域・企業・学校等と連携したモビリティマネジメント	○市内イベント(わこらぼフェス、市民まつり)におけるPR活動等を実施 ○転入者に向けたバスマップ配布	A	○	・市内の学生や通勤者等を対象としたモビリティマネジメントを検討する。
【施策 7】 多様な交通サービス等との連携	事業 7-1 交通拠点における乗場・ダイヤ調整	○市内循環バスのダイヤ検討時の乗り換え時間の考慮	B	○	・市内循環バスの運行見直しに伴い、乗り換え時間の平均が8%減少した。引き続き、乗り継ぎしやすいダイヤ等についても検討する。
	事業 7-2 公共交通とその他移動サービスの連携方策の検討・研究	○福祉担当部局との継続的な協議により、現在の移動支援制度から漏れている方の支援の在り方について検討	B	○	・具体的な事業やその対象者を確定させ、令和7年度中に事業を開始する。
	事業 7-3 公共交通と福祉施設の連携方策の検討・研究				
【施策 8】 運賃施策	事業 8-1 路線バスと市内循環バスの運賃格差の是正	○和光市内循環バスの運行見直しに併せ、路線バスの初乗り運賃に合わせた運賃への見直し ○優待乗車制度の対象者及び優待内容の見直し	A	○	・運転士の業務負担軽減、バス利用者の利便性向上に向け、令和7年度中にフリーパスについて制度設計を行う。
	事業 8-2 市内循環バスの利用者（受益者）負担に基づく料金改定				
	事業 8-3 乗り継ぎ運賃割引	○市内循環バスについてはこれまで通り、乗継券を発行する。	A	○	・市内循環バスと路線バスの乗継割引制度を検討する。
	事業 8-4 市内公共交通等のサブスクリプション（定額制）化の検討・研究	○他自治体等や民間交通事業者等の事例収集	B	○	・引き続き、事例収集を行う。 ・和光市の地域公共交通の特性等を踏まえ、サブスクリプションサービスの実現性について研究する。